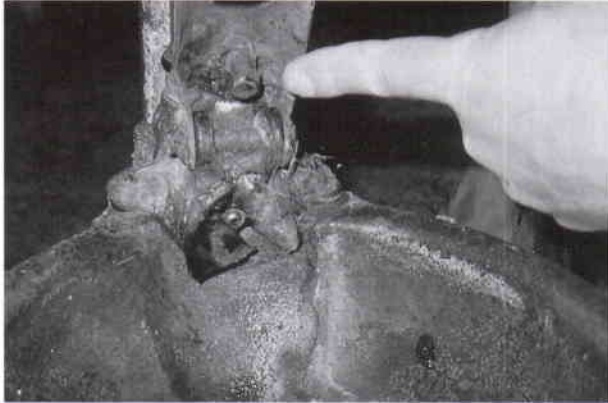
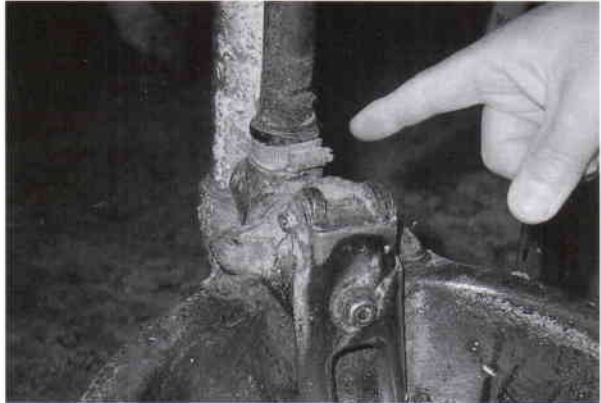


## VI 水

### 1. ウォーターカップ



ここのボルトが錆びたり、すり減ると、吐水量が減少します。



パイプのこの位置は錆びやすい。穴があいたので、ゴムを巻き金具でしめて補修しました。



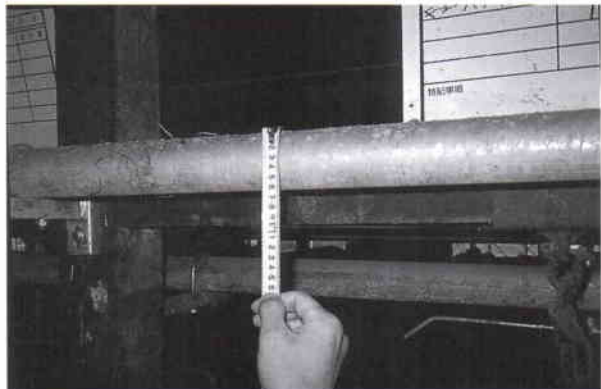
清掃前のウォーターカップ



清掃後のウォーターカップ



へらの裏のぬめりを取りましょう。



横配管の径はさまざま。牛が一斉に飲水を始めた時に吐水量が減少しないように太いものが望ましい。



傾いているウォーターカップ



故障しているため、ひもで使用出来ないように固定しています。

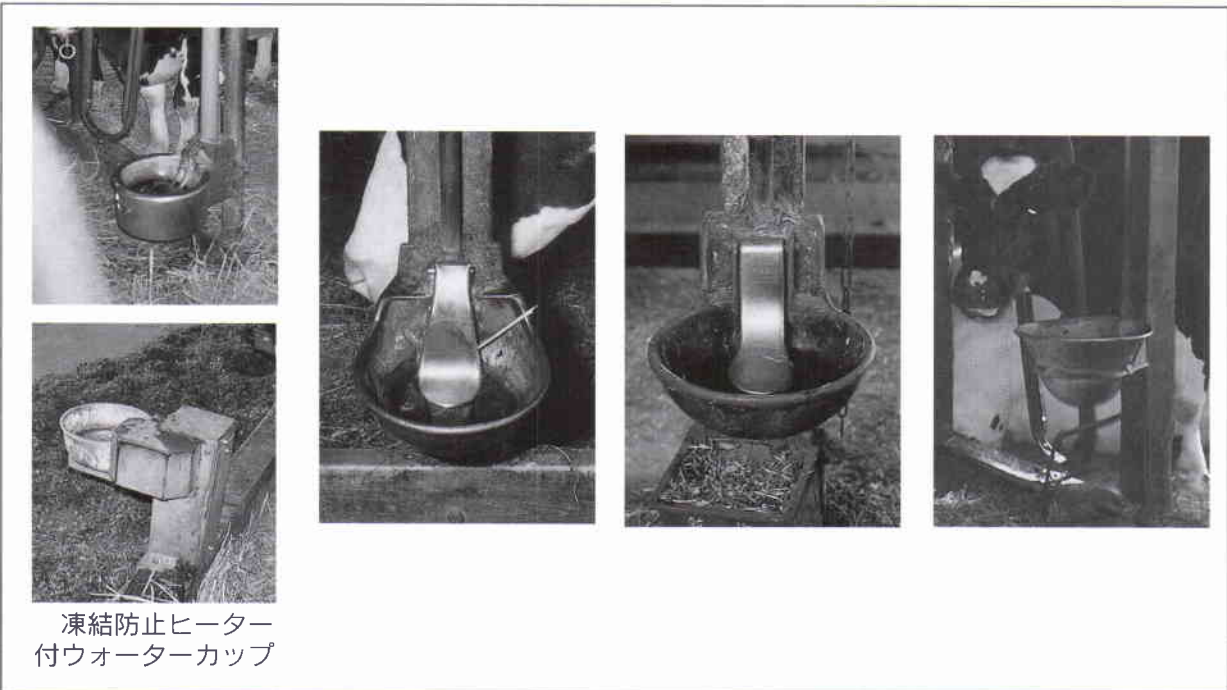


牛のいたずらや、ウォーターカップの故障により、水が飼槽に溜まっています。



サイレージがたっぷり入り、飼馬桶のようになったウォーターカップ

### ☆いろいろなタイプのウォーターカップ



凍結防止ヒーター付ウォーターカップ

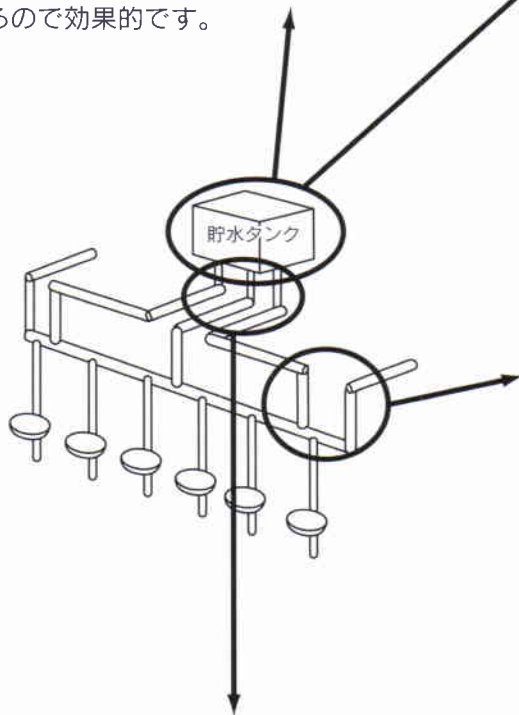
## 2. 配管の改善



貯水タンクの設置は、複数のウォーターカップが使用される時に、吐水量の減少を軽減するので効果的です。

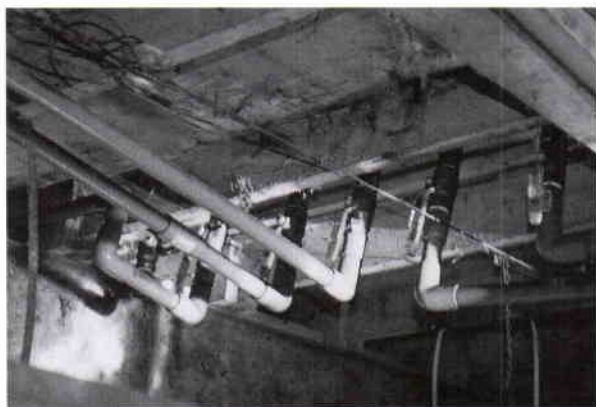


貯水タンクを屋根に設置してある。コンパネ2枚で蓋をする。設置も清掃も簡単です。

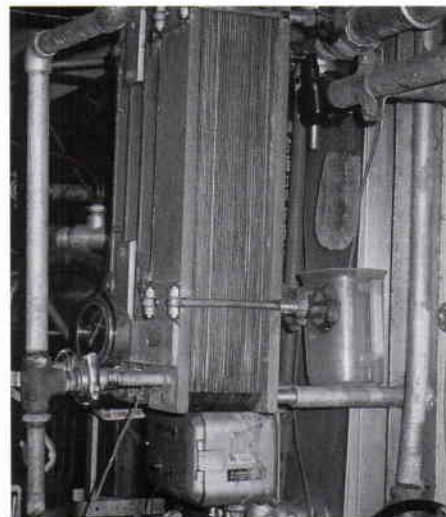


貯水タンクから伸びた横配管が牛舎の端で、別の横配管と接続している。

また、下の横配管は、行き止まりではなく、牛舎内をリンク配管されています。



2階の貯水タンクからウォーターカップへ6本の横配管を巡らしています。この配管は、牛舎を一巡している別の横配管に、牛舎の中央と両端で接続されています。ウォーターカップの吐水量は十分。



プレートクーラーの温水を貯水タンクに引き込んでいる事例。節水効果と熱利用をしています。

### 3. 連続水槽



十分な飲水を可能にした連続水槽。



水槽と、仕切板の間から採食しています。水槽が飼槽側に出ているので、採食時に邪魔にならない。



排水口、広い方がよい  
写真は2インチ



水槽に入った飼料は、網で簡単に  
すくい取れます。



排水口の下キャップをはずし、一輪車で排水を受ける。



ボールタップ



ハドソンウォーターコントロールバルブ